

令和2年度 協議体の取り組みについて

新型コロナの影響により地域の様々な活動が休止・中止となり、人との接触も控えられる状況が続いています。各地域協議体では、このような状況だからこそ住民同士のつながりが大切であることを意識共有し、支えあいや助けあいによる介護予防・生活支援がさらに充実するよう、地域の実情に応じた取り組みを進めました。

○横手地域協議体「よこて支えあいネット」

◆構成員 民生委員、主任児童委員、福祉協力員、いきいきサロン、婦人会、NPO、子育てサークル、公民館、市職員、社協職員など（14名）

◆概要

つどいの場や支えあい活動、福祉活動などを積極的に行っている団体などの“地域のお宝”の情報収集や取材を行っており、把握した情報は「地域資源一覧表」にまとめているほか、広報用チラシにより地域へ情報発信した。

地域支えあい推進員とエリアマネージャーによる打ち合わせ会議を毎月開催し、協議体の取り組みの円滑な進め方についての意見交換などを行った。

《主な取り組み》

- ・ つどいの場等の活動者の意欲向上や新たな活動の創出などを目的とした「お宝発表会」の検討。
- ・ コロナ禍におけるつどいの場や支えあいの取り組みなどを取材し、チラシにより情報発信。



推進員・エリアマネージャー打ち合わせ会議

○増田地域協議体「支えあいますだねっと」

◆構成員 共助組織代表、福祉施設職員、商工会青年部、市教育委員会、民生委員、ボランティア活動者、いきいきサロン、地区交流センター、市職員など（16名）

◆概要

職場の異動などにより、協議体に参加できない構成員もいることから、全構成員に継続参加の意向確認を行った。また、協議体の取り組みを活性化させるため、併せて適任者を推薦していただき、構成員の追加を行った。

地域局のフリースペースに設置した大型のマップを活用し、趣味活動やサロンなどの様々なつどいの場の情報を周知しているが、その取り組みをより多くの方に知っていただけるように、チラシによる情報発信を検討している。

《主な取り組み》

- ・ 協議体を活性化させるため、地域でつどいの場を開催する方々を構成員として追加。
- ・ 自宅でもつどいの場の情報を得られるように、チラシによる「ますだまっぷ」の周知を検討。



構成員再編成後の定例会

○平鹿地域協議体「ひらかえ愛ねっと」

- ◆構成員 町内会長、民生委員、福祉協力員、ボランティア活動者、地区会議、いきいきサロン、婦人会、JAたすけあい組織、商工会女性部、交流センターなど（15名）

◆概要

つどいの場で活用できる助成金の情報や、様々な活動に参加することが介護予防につながることをチラシにより周知した。しかし、新型コロナの影響により活動を休止するつどいの場が多いほか、外出を控える状況にあり、住民同士のつながりの希薄化や体力の低下などが課題となっている。そのため、つどいの場における感染症対策や、日常の中で自然と行われている交流の様子も今後地域へ広く発信していく予定。

《主な取り組み》

- ・つどいの場に関する情報を掲載した広報用チラシの作成と全戸配布。
- ・つどいの場の開催状況や開催時に行われている感染症予防対策の情報収集と取材。



つどいの場などを周知する「ひらかえ愛ねっと通信」

○雄物川地域協議体「おももの川支えあいネット」

- ◆構成員 民生委員、福祉協力員、老人クラブ、交流センター、共助組織、地域活性化グループ、地区会議、直売の会、社協職員など（17名）

◆概要

買物と健康づくりを兼ねたつどいの場づくりを進めており、スーパーや福祉施設への働きかけにより、会場や送迎車両を提供していただけることとなった。現在は民生委員や共助組織、いきいきサロン等へ働きかけを行っている。

3G回線携帯電話（ガラケー）が使用できなくなることを不安に感じる高齢者が多いことから、携帯電話会社が行う出張型相談会やスマホ教室の情報を収集し、つどいの場や関係機関等へ情報提供を行った。

《主な取り組み》

- ・スーパーや福祉施設、福祉関係者との連携によるつどいの場開設に向けた検討と働きかけ。
- ・つどいの場を主催する構成員を講師に、立ち上げの経緯や苦労等を学ぶ構成員研修の実施。



つどいの場の立ち上げなどに関する構成員研修の様子

○大森地域協議体「おおもり支えあい協議体」

◆構成員 町内会長、民生委員、地域活動者、育英会役員・事務局長、
交流センター運営協議会委員、いきいきサロン、市職員など（15名）

◆概要

防災への関心が高いという地域性を踏まえ、日常から災害時までみんなで支えあえる地域づくりを進めるため、既存の自主防災組織の協力を得ながら各町内で地域の防災をみんなで考える機会を持てるように検討を進めた。

協議体と地区交流センターの取り組みには共通点が多く、相互の取り組みを円滑に進めるためには連携が必要であるため、交流センターの会議へ協議体構成員が参加するなど、協働で取り組める体制づくりを進めている。

《主な取り組み》

- ・ つどいの場や生活支援の取り組みの情報収集と一覧表の作成。
- ・ 地区交流センターとの連携に向け、交流センター長や運営委員への説明と協力依頼。



地区交流センター総会で協議体との連携を意見交換

○十文字地域協議体「まめ☆だすか ささえあいネット十文字」

◆構成員 PTA会長、民生委員、福祉協力員、いきいきサロン、商工会、
老人クラブ、ボランティア活動者、公民館、交流センター、
地域活性化グループ、市職員、社協職員など（13名）

◆概要

住民同士のつながりが深まることで生まれる「支えあい」の充実を図るため、つどいの場づくりをテーマに取り組みを進めており、つどいの場の情報収集を行うと共に、広く地域へ発信するためのチラシを作成し全戸配布した。

健康づくりや世代を超えて住民同士のつながりを深めることなどを目的に、「中学生と高齢者の絆を深める取り組み提案コンクール」で提案のあった『減災ウォークラリー』の実現に向け、中学校への働きかけなどを行った。

《主な取り組み》

- ・ つどいの場等に関する一覧表の作成と広報用チラシによる情報発信。
- ・ 「減災ウォークラリー」の実現に向けた検討と中学校への働きかけ。



協議体の取り組みと社会参加を呼び掛ける広報用チラシ

○山内地域協議体「さんない生活支えあいたい」

- ◆構成員 区長（元職含む）、民生委員、福祉協力員、劇団代表、婦人会、共助組織事務局長、食材納入組合代表、元地域づくり協議会委員、消防団、JA秋田ふるさと職員など（15名）

◆概要

温泉施設へ働きかけ、送迎を含めたつどいの場の立ち上げを進めていたが、新型コロナの影響により開催が難しいため、開催時期について温泉施設との調整を行っている。また、町内のつどいの場も開催がためられる状況にあることから、再開したつどいの場の情報や参加者の声をまとめたチラシを発行し、つどいの場を通じた住民同士のつながりの大切さについて周知した。

《主な取り組み》

- ・再開されたつどいの場の情報などを掲載した広報用チラシの発行。
- ・各地区で行われた小ネットワーク会議に構成員が出席し、地域の現状把握を行った。



構成員が出席した小ネットワーク会議の様子

○大雄地域協議体「大雄支えあいネット」

- ◆構成員 民生委員、主任児童委員、福祉協力員、いきいきサロン、婦人会、老人クラブ、商工会女性部、福祉施設職員、市職員など（15名）

◆概要

新型コロナの影響によりつどいの場を休止し、開催の判断に迷っている地域も多いことから、感染症予防を行いながら開催されているつどいの場の情報やつどいの場に活用できる助成金の情報をまとめたチラシを全戸配布した。

地域のどなたでも参加できるつどいの場「みんなのカフェ」について、運営や参加者の送迎等を住民主体で支えあいながら開催する方法を検討したほか、担い手となる参加者の募集について地域への働きかけなどを行っている。

《主な取り組み》

- ・感染症予防に配慮したつどいの場や活用できる助成金を記載したチラシの発行。
- ・つどいの場を継続していくための課題把握と参加者同士で支えあいながら開催する方法の検討。



つどいの場の視察の様子

○横手市協議体

◆構成員 各地域協議体代表者（8名）

※いきいきサロン代表世話人、商工会青年部、福祉協力員、ボランティア組織代表、育英会役員・事務局長、地区交流センター長、民生委員、主任児童委員など

◆概 要

横手市協議体と地域協議体の連携強化と、地域の実情に応じた取り組みを円滑に推進するため、協議体構成員の再編成を行った。

定例会では、地域協議体の構成員がこの事業についての理解を一層深められるような研修の実施、支えあう意識の醸成や社会参加の啓発などを目的とした広報用チラシの発行などについて検討した。

《主な取り組み》

- ・支えあいや社会参加などを呼びかける広報用チラシの作成と発行。
- ・協議体の役割を再確認するための構成員研修に関する検討と地域協議体での実施。



協議体の役割の再確認などを行う構成員研修（横手地域）